

IPADを使用した大学での授業；いかにアイデンティティと人権について英語で教えるか？

～AS AN APPLE DISTINGUISHED SCHOOL～

(* 学会提出版：COPYRIGHTの関係で発表時とは異なる)

大阪女学院大学 国際・英語学部
上野育子

Osaka Jogakuin University
Ikuko Ueno (ueno@wilmina.ac.jp)

2019/07/13

本日の発表

- はじめに（大阪女学院大学の英語教育の歴史的背景）
- 大学カリキュラム/コース説明
- iPadオリジナルテキスト説明
- 具体的授業実践報告

お願い

本発表では大阪女学院大学
オリジナル教材を扱っている
ため、お写真はご遠慮く
ださい。



INTRODUCTION

- 1884年、米国宣教師によってウヰルミナ女学校創設
- 1968年大阪女学院短期大学（英語科）
- 2004年 四年制大学（国際・英語学部）



AIMS FOR CURRICULUM

- 現代社会が直面する様々な課題、その根底に潜む問題に目を開くこと
- 広い視野から異文化を受容する態度や、興味・関心のある専門学術分野について深く学ぶことのできる基礎知識や研究方法を身につけること





ENGLISH EDUCATION

読む・聴く・書く・話すの4技能を
総合的に向上させるカリキュラム

OUR SCHOOL POLICY

“Learn the contents in English”

“英語で学ぶ”



CLIL!!



「国際性4位」

THE 世界大学ランキング 日本版
2019の国際性分野で日本の全大学中
4位

と報告された。（外国人学生比率、
外国人教員比率、日本人学生の留学
比率、外国語で行われている講座の
比率の4つのデータで評価）



総合ランキング

分野別ランキング

エリア別ランキング

教育リソース

教育充実度

教育成果

国際性

「THE世界大学ランキング 日本版」国際性ランキングを掲載。外国人学生比率・外国人教員比率に加え、今年度は日本人学生の留学比率・外国語で行われている講座の比率も含めた4種類のデータから、どれだけ国際的な教育環境になっているかを評価している。

ランキング指標

国際性 順位	大学名・所在地	総合	教育リソース	教育充実度	教育成果	国際性
1	国際教養大学 秋田県 > 大学プロフィールを見る	76.7	51.4	92.4	72.0	100.0
2	国際基督教大学 東京都 > 大学プロフィールを見る	72.7	54.3	90.4	50.1	95.4
3	立命館アジア太平洋大学 大分県 > 大学プロフィールを見る	63.7	34.5	82.8	52.3	94.0
4	大阪女学院大学 大阪府 > 大学プロフィールを見る	42.0-44.1	—	54.8	—	86.5

CLILでスムーズに授業を行うためのさまざま工夫

- ・ 入学してすぐオーバーナイト・オリエンテーションの実施
- ・ 4月の3週間は英語で授業が受けられるような準備期間（Academic Literacies や Paragraph readingの知識）



INTEGRATED LEARNING

- Project-based Learning (プロジェクトとして学ぶ)
- Content-based Learning (内容重視)
- Student-centered (学生主体)
- Active learning

TEXTBOOKS

- iPad内オリジナルテキスト
- 4つのテーマで構成
Identity/Peace/Sustainable
Future/ Human Rights
- Reading, Writing, Listening,
Presentation, Discussion
- チームティーチング(外国人
教員 & 日本人教員)

IN THE CLASS (習熟度別クラス編成)

- 内容理解
- リサーチ
- ディスカッション
- プレゼンテーション or
レポート

IN THE CLASS (習熟度別クラス編成)

- **内容理解** : まず世界のトピックスを知る
- **リサーチ** : 自分の考えとなるヒント探し
- **ディスカッション** : 発信する考えをまとめ、個々の意見を交換する
- **プレゼンテーションorレポート** : 発表という形で総まとめ (日々の英語学習を支える学習サポートセンターで先生や上級生からエッセイなどの作成のサポートが受けられる)

HOW DO WE TEACH “IDENTITY”?

- personal values and beliefs
- beliefs, values, and behavior
- personal, cultural, social identity
- culture and subcultures
- ethics in society/business

HOW DO WE TEACH “IDENTITY”?

- Reading section
- Chosen identity & Given identity
- Beliefs, values, and behavior

HOW DO WE TEACH IDENTITY

- **Pre-reading**
- Have you thought about who you are?
- What beliefs are very important to you?
- How do you think your identity shaped by people around you?



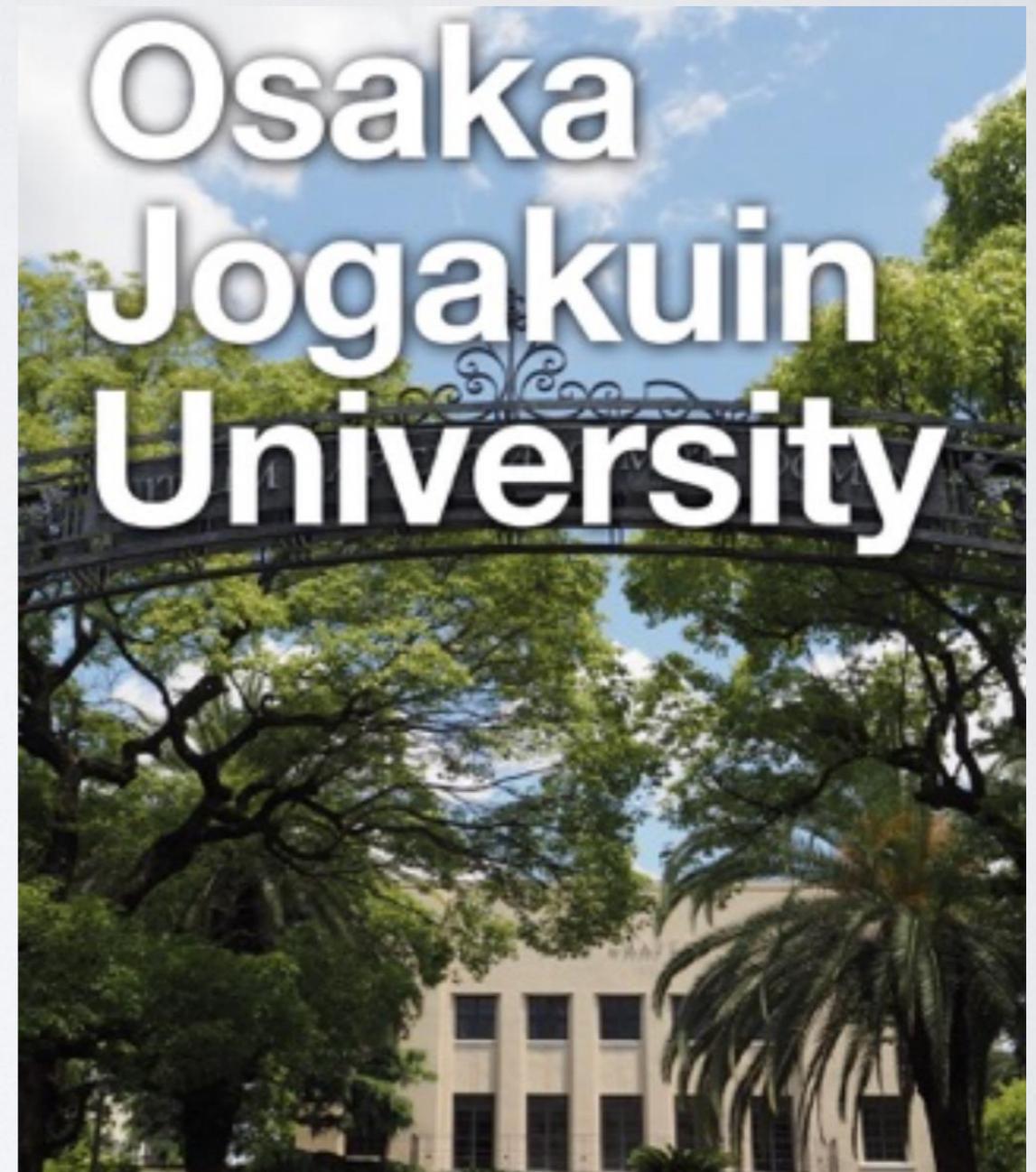
HOW DO WE TEACH IDENTITY

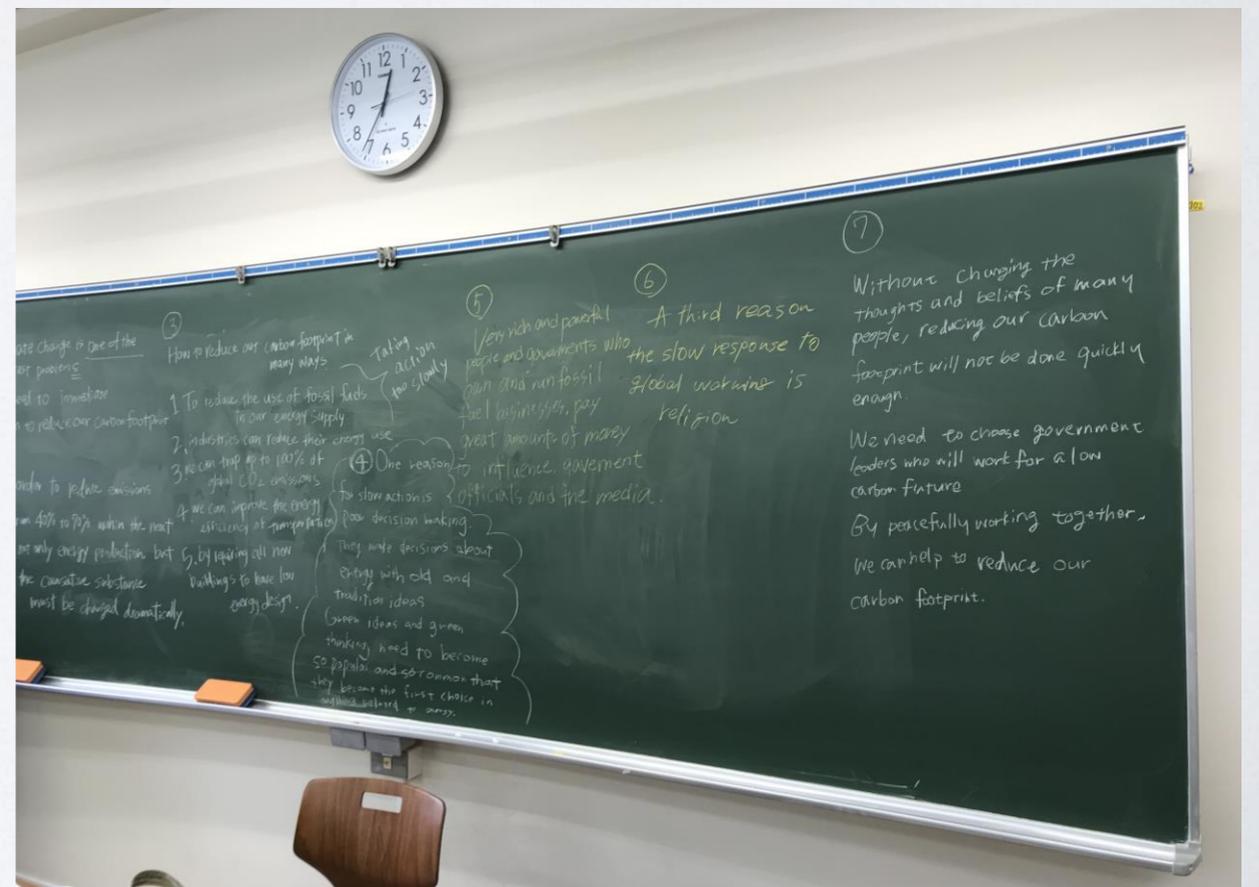
- **chosen identity:** how you view yourself
- **given identity;** how you are viewed by others
- Our identities are made up of what we think and what others think about us.



HOW DO WE TEACH IDENTITY

- **Discussion**
- Consider the idea of “chosen identity.” What parts of your identity are chosen? What do you think might be your given identity?
- What events or activities in your life have influenced your identity?





FEEDBACK QUESTIONS

- 今学期あなたはオールイングリッシュの授業で、**identity book**からどのような内容を学びましたか？
- ”英語で学ぶ“というスタイルは自分にとって良かったと思いますか？ **はい/いいえ** どちらかを選んで、理由を簡単に教えてください。 (N=16)

FEEDBACK FROM STUDENTS

- Q1の回答

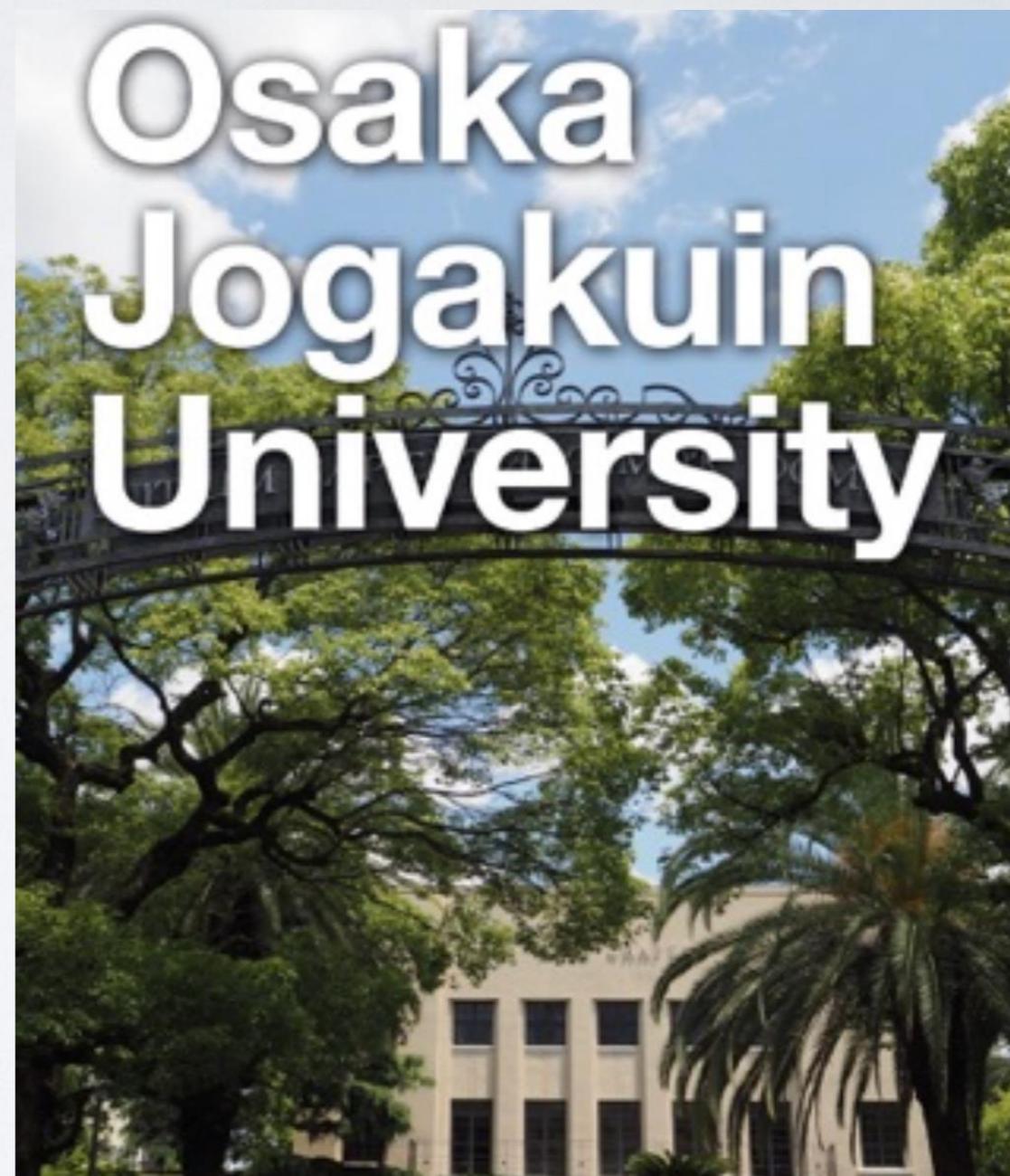
- “自分のアイデンティティを理解することは他の人を尊敬することにもつながると知りました”
- “自分のアイデンティティはいろんな人たちや物などに形成されているということ”
- “外国と日本のアイデンティティの違い”
- “自分のビリーフによって成り立つ自分。他者のアイデンティティと自分のアイデンティティの大切さ”



FEEDBACK FROM STUDENTS

- **Q1の回答**

- “今まであまり気にしなかった事や関心がなかった事に興味を持つことが出来た“
- “ビリーフや価値観によって行動が変わる点は驚いた”
- “価値観や固定観念で人を判断することはその人のアイデンティティを否定することになると知った“



FEEDBACK FROM STUDENTS

- **Q1の回答**
- "日本語で説明するのも難しい内容をディスカッションする時、自分の知識内の英語で言い換えるように工夫する力がついた"
- "英語で会話する時に以前のように間違ったらどうしようとかを気にせずに言えるようになった"
- "アイデンティティの内容を英語と日本語のどちらでも考える必要が出来たので深く理解することが出来たと思う"



FEEDBACK FROM STUDENTS

- Q2の回答（肯定派）
- “語彙が増えた気がする。たくさん話す事で文の形を覚えるので話せるようになった”
- “日本語に訳しにくい事や日本語にはない感覚みたいなものが英語のまま理解するほうが分かりやすいと思った”



FEEDBACK FROM STUDENTS

- Q2の回答（肯定派）
- “集中していないと分からないので集中しなければという意識が強くなる”
- “英語に慣れてリスニングが出来るようになった”
- “英語に耳が慣れてきたことで、考えを他の人に伝えることもできるようになった気がする”



FEEDBACK FROM STUDENTS

- **N= 16**
- **リスニング**というワードを使用した学生8名
- **集中力**というワードを使用した学生3名

LEARNERS' BELIEFS ABOUT TL USE ONLY IN THE CLASS

- Ueno(2018) 大学生と大学教員の授業内英語使用に関するビリーフを比較調査。量的、質的な分析を行った。（大学生：234名、教員：54名）
- 大学生の授業内英語使用に関してのビリーフでは今回と同様、リスニングや集中力というタームがキーワードとして挙がってきていた。

- **References**

- Ueno, I.(2018). A comparative Study of Non-native English Speaking Teachers' and University Students' Beliefs about Target Language Use Only in the class. *The Journal of the Japan Society for Speech Sciences*, 19, 63-80.

ご清聴有難うございました。

